

海外での子育てのリアル

「新しい海外での子育て」について、海外帯同から帰国後の3人の母親による覆面座談会を企画した。メインテーマは「海外での子女教育のメリットとデメリット」。体験に基づく本音で語り合ってもらった。

出席者

 <p>Aさん シンガポール(2017~20) タイ(21~23)に滞在</p>   <p>長女 日本人学校(小1~小5シンガポール、小5~6タイ)→帰国後、公立中に入新学 次女 ローカル幼稚園(シンガポール)からインター校(タイ)→帰国後、公立小3年に転入</p>	 <p>Bさん タイ(2018~25)に滞在</p>   <p>長男 日系幼稚園からインター校→帰国後、公立小6年に転入 次男 日系幼稚園からインター校→帰国後、公立小4年に転入</p>	 <p>Cさん タイ(2011~24)に滞在</p>   <p>長男 日英バイリンガル幼稚園→インター校→帰国後、公立小6年に転入 長女 英語のナーサリー(託児所)→日系インター幼稚園→帰国後、認定こども園*に入園</p> <p><small>*認定こども園(0歳~就学前までの子どもが対象の教育・保育施設)</small></p>
---	---	--

司会 日外協 広報部 佐藤 真樹

最初に直面した「教育選択」の岐路

司会 まず、駐在先での学校選びは？

Aさん わが家は8年前にシンガポールに駐在しました。長女は小学校に上がるタイミングだったため、本人の意思で日本人学校に入学しました。2歳の保育園児だった次女は、会社の規定で日本人幼稚園分しか補助が出ず、同国は学費がとても高いので、自費でローカルの幼稚園に通わせました。

4年後にタイにスライド(駐在延長)となり、長女はタイの日本人学校に転入、ローカル幼稚園で多文化に慣れてきた次女は、タイでもインター校を選びました。

Bさん わが家は7年前に2人の子どもが保育園の時に赴任し、タイの日系の幼稚園に入れました。海外では日系やインター校、バイリンガルやローカルなど教育の選択肢が多く、とて

も戸惑いました。5つほどの幼稚園を見学する中で、「親としてどういう教育をしたいのか？」を突き付けられました。3年後には帰国する予定だったので、夫婦で相談し、「日本人の先生や日本人児童がいて安心して預けられる」日系の幼稚園にしました。

その後、「せっかく多くのことを学べる環境にいるのだから」という理由で、小学校はインター校に入学。結果、駐在期間が7年になり、長男が6年生、次男が4年生の時に帰国して、公立の小学校に転入しました。

帰国前には「日本の学校に慣れていただけの方が良い」という判断から、子どもたちとも話し合っただけで現地の日本人学校に転校したのですが、あまりにカルチャーの違いが過ぎて登校拒否気味に。そこで、「現地にいる間は楽しく学べた方が良い」と考え直し、インター校に再転校して、その半年後に帰国しました。